

保育おおさか

平成17年12月1日 第364号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426旭日小綴章
市橋 昭
(一乗寺学園)瑞宝双光章
井上緋紗子
(鳥飼さつき園)瑞宝単光章
中西 治代
(第二末広保育園)

秋の叙勲

歩んだ道に光

■秋の叙勲■

- ・旭日小綴章
市橋 昭 (一乗寺学園)
- ・瑞宝双光章
井上緋紗子 (鳥飼さつき園)
- ・瑞宝単光章
中西 治代 (第二末広保育園)

■厚生労働大臣表彰■

- ・井手尾睦子 (上之郷保育園)

■全社協会長表彰(功労)■

- ・原田 文子 (一津屋愛育園)
- ・濱田 智 (智鳥保育園)
- ・和田 秀之 (さくら保育園)
- ・山嵜千代美 (ひなぎく保育園)
- ・葛城 好隆 (和泉ひかり保育園)

■全社協会長表彰(永年勤続)■

- ・三角 寛子 (たんぽぽ保育園)
- ・井上緋紗子 (鳥飼さつき園)
- ・安波 節子 (南総持寺保育園)
- ・森田英津子 (倉治保育園)
- ・永田美智子 (聖心保育園)
- ・西持田百合子 (豊野保育園)
- ・山口 宏明 (みるく保育園)
- ・石崎 啓子 (高鷲保育園)
- ・柳川 信子 (やわらぎ保育園)

- ・樋口あけ美 (こひつじ保育園)
- ・山本真由美 (こひつじ保育園)
- ・西田 恵子 (ひまわり保育園)
- ・門 暁子 (松の実園保育所)
- ・浅井 広子 (アンビー)
- ・中村谷篤子 (なかよし保育園)
- ・田平百合子 (稲荷学園)
- ・徳永 明子 (さくら保育園)
- ・城村千賀子 (たんぽぽ安成保育園)
- ・伊藤 幾惟 (まつばら駅前おおぞろ保育園)

■全保協会長表彰■

- ・原田 文子 (一津屋愛育園)
- ・岡山 豊子 (長尾保育園)
- ・川崎利衣子 (貝塚中央保育園)
- ・細田裕美子 (坂門ヶ原保育園)
- ・西岡 成典 (恵果保育園)
- ・一木 敬子 (鈴ノ宮保育園)
- ・宗形 昭男 (小野原学園)
- ・山本 久美 (大東わかば保育園)
- ・亀井裕美子 (御池台保育園)
- ・山野 淳子 (しいの実保育園)

■全保協会長 特別感謝■

- ・門谷 明 (陽気保育園)
- ・武内 茂子 (旭ヶ丘学園)

祝電披露の後、全国保育協議会の御園愛子副会長による主旨説明がされ、熊本市、リリー保育園の上野久さんが大会アッピールをされた。(2面につづく)

いまや、日本人の文化は和洋折衷、良くいえば「融合」と調和の文化「悪くいえば「どちらつかずの文化」といった所であろうか。子が産まれると神社にお宮参り、結婚式は教会で、葬儀は仏式。こんな人が多いと聞く。近年自分さえ良ければ、他人や理由はどうでもいいという考えの人も多い。そんな無責任さが宗教観にも現れているのだろうか。クリスマスを迎えるにあたり、世界の平和と子どもたちの幸せを祈ります。(N・S)

全国保育研究大会

熊本

子育て支援を考える

第49回全国保育研究大会が、平成17年11月9日(水)～11日(金)の3日間、熊本県熊本市の市民会館及び市内のホテルで、全国から約1900人の保育関係者が集い開催された。

今年は、「地域に広げる子育て支援—保育所がすすめる次世代育成—」をメインテーマに、講義、研究発表が展開された。

市民会館で行われた全体会は、毎年8月15日・16日



性、力強い演奏のもと踊った舞は、優雅で美しく、伝

統文化の重みを感じながらも心を和ませてくれた。

開会式 大阪府からは、 12人が受賞

開会式は、熊本県保育協議会の松本敬士会長の挨拶に始まり、児童憲章朗読・物故者への黙祷の後、全国保育協議会の小川益丸副会長と全国社会福祉協議会の松尾武昌常務理事が主催者を代表し挨拶された。

その後、全国保育協議会からの感謝状、表彰状の授与式が行われ、大阪府からは、12人が受賞



日本はいつからキリスト教国家になったのだろう。そんな錯覚さえ覚えさせる

12月の光景である。街頭にはいたる所にツリーが飾られ、クリスマスソングが聞こえる。ここぞとばかりに展開されるクリスマス商戦。キリスト教徒の小生にとっては嬉しいような悲しいような、複雑な思いである。一体、何人がクリスマスの本当の意味を知っているのだろうか。サンタクロースの日でもない。イエスキリストの誕生日である。

全国保育研究大会

厳しい局面に
総力をあげて(1面から)
行政説明

最新の情報を

続いて行政説明として厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課の尾崎春樹課長から、①三位一体改革についての最新の動向、②直接契約・直接補助・育児保険について、③総合施設について(中央教育審議会幼児教育部会と社会保障審議会合同の検討会議まとめ)の3点についての説明があった。

特に平成17年3月25日に

大阪から発題

第1分科会

保護者ニーズに向き合う

庭・独身者など)の理解を得ることができているのか、などを説明され、参加者は最近のホットな情報に熱心に聞き入っていた。

続いて、全国保育協議会の小川益丸副会長から「保育をめぐる動向と全保協の取り組み」と題して、今後の厳しい保育の動向に対して、全保協が積極的に取り組



第49回 全国保育研究大会

◆実践発表の概要◆

疾病や病状に応じて、専門的な看護がで

きる看護士と保育士との連携によって、病後時保育は「親の安心」と「子どもの安らぎ」を得

られる場と考える。存在する中で、懇意的な選別や低所得・母子家庭などの弱者の利用が排除されないか。直接補助・認可外保育施設などの質の悪い保育サービスのために財政負担が膨張しないか、育児保険―確実に保険の恩恵を受けたい人々(子どものいない家

病後児保育について

2日目は、市内の5つのホテルに場所をうつし、「分科会・フリー発表会」

分科会

第1分科会では、課題である「保護者の多様なニーズにこたえていくために―様々な保育事業の展開にあ

たって―」のもとに、実践



千崎祥子さん

例に基づいた研究発表がなされ、大阪府からは全国を代表して高槻市の芝谷聖ヶ丘保育園の千崎祥子園長が発表された。

芝谷聖ヶ丘保育園では、「清く、正しく、明るく、強く」を保育方針に、日々の子どもの中心に据えた保育活動の実践はもとより、多機能型保育園として多様なニーズにこたえている。その中でも高槻市で唯一実践されている「病後児保育」についての発表が行われた。

親と子に
安心と安らぎを

関わりを「どんな抱っこが好きか」など、きめ細かく対応されており、パワーポイントによる写真

説明が非常にリアルで分かりやすいものであった。実際に、利用者からの声も、お礼の手紙を頂かれたり好評であるとの報告がされた。

今後の課題とし

ては、医師連絡票(医師の許可を得た書類)が必要と

なるため、結果的に医師の診断にゆだねられるため、今まで以上に理解と協力を

求める必要があることなどであり、利用して本当に良かったと思っ

たと思っ

たと思っ

たと思っ

たと思っ

たと思っ

たと思っ

たと思っ

たと思っ

たと思っ



落合恵子さん

5―クレヨンハウス30年の現場から―と題し、子どもや女性、高齢者、障害のある方たちの声を広い角度から楽しく講演された。

次期開催地である福井県保育協議会の関捨男会長が挨拶され、続いて全国保育協議会の伊藤安男副会長の閉会の言葉で全日程を終了した。

(玉川橋保育園 M・K)

落語医者の保育うだうだ話

こぼれ話②

「オニババ化する母親たち」

先月から引き続き、かしわ保育園園長で、
児童精神科医師の北畑英樹さんに、お話をお
伺いしました。



北畑英樹さん

■オニババ化する女たち

先日、三砂ちづるさんの「オニババ化する女たち」女性の身体性を取り戻す」という本を読みました。もつと女性は女性の身体性を大切にしよう、生理・妊娠・出産などの女性特有の身体性を大切にしないと「オニババ」になるといふんです。男の私には文字どおり身体感覚としては理解できなかったんですが、でも、考えてみれば、いくらキャリアウーマンとして男性管理社会で働いていても、女性が自分の女性性を捨てることなど不自然で、すし、体にもいいとは思えません。

■管理社会の子育て

女性基本的には、国語

辞典を読んでも分るように、両性のうち妊娠できる性です。産む、産まないは勝手だという話がありますが、自然に考えると産みたいものだし、出産も女性の大きな「仕事」の一つです。また、女性の身体性について、女性も自信をもって、大切にいくつしみながら行動するべきだと思います。それを認める社会こそが男女共生社会ではありませんか。

男性と同じようにという

ことで、女性の身体性を無視して男性的に仕事をする

ことで、ミニオニババ化した母親が増えるのです。

そんな母親が子育てをするので、子どもたちが犠牲

になってしまふのではない

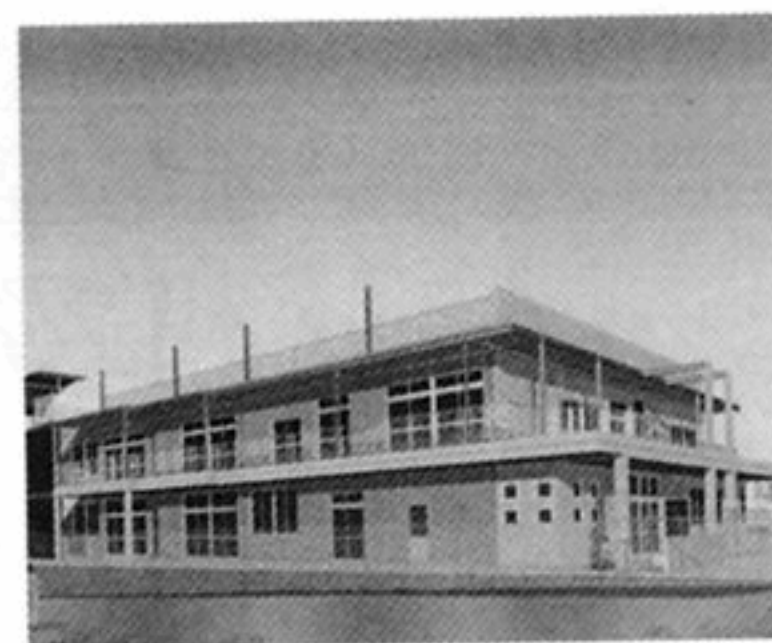
老朽改築を終えて

堺市

三原台保育園

平成16年11月からまる1年かけ、全面建て替え計画を実施し、平成17年11月1日、正式にリニューアルすることができ、現在、ピカピカでとても気持ちよく生活を営んでいます。

当施設は昭和48年から平成13年3月まで堺市立、同年4月から当法人に民間移管されており、施設自体が経年数や立地の酸度が高いことによる腐食などで、予想以上に痛んでいたことと、これからのニーズへの対応力を確保する観点から、全面建て替えを計画しました。この改修計画に関して、



いくつかポイントがありま
す。①限られた敷地面積を

有効活用できる配置とし、騒音など近隣への配慮もできること、②空間を有効利用するため、シンプルなデザインとし、自然の風や光を取り入れ、温かみのある空間をつくる、③今後の施設整備がしやすいような配置とすること、などです。これに基づいて、設計士と調整しました。

これまで、保育園という

かと思っています。そうでなければ子どもを虐待するなんて考えられません。

■「子育て」は家族の機能

また、単身赴任というのも、女性も男性も妻・夫として不自然なものであり、子育てにとってもマイナスであることは当然のことなのに、日本では一般に認められていくという事は大きな問題です。

夫婦のお互いの身体性という観点からも欲求不満がつり、ミニオニババ化した母親が増えるのではないのでしょうか。

家族の機能として「子育て」があるべきですから、もっと家族を大切にすべきです。

せっかく厚生省と労働省

が一緒になったのだから、単身赴任は子どもが小さいうちはしないと決めるとか、そういう法律はできないかなと思っています。父親が家にいなくて、母親が父親の仕事もしないといけないなんて、母親にとっても、子どもにとっても、まだまだ、日本では子育てに対して不自然な環境が多すぎると思います。

結局、女性の身体性や家族の機能、あるいは大きくいえば経済至上主義的な生活が本場に「幸福」なのかということなど、根本的な問題をもっと考えないと少子化がとどまることなどないと思うのですが…。

保育部会 常任委員会 報告

11月1日(火) 午後2時～

- 中央情勢について
- 12月の常任委員会について
- 平成17年度新年互礼会について
- その他

性質上、「子ども達の育ちの場」として据えることが主であったのですが、もつと長期の「人の育ちの場」として据えることで、大きな変革と施設計画のイメージ・コンセプトへの影響があったと考えています。もちろん、子どもたちへの配慮に最もウェイトをおいているわけですが、現在の社会情勢は、前世代的な考え方はとうていクリア出来ないような課題(ニーズ)を我々に突きつけていますので、少しでも対応できるような考慮し、設計各所に盛り込んできました。利用者の皆さんも職員もまだまだ戸惑いはありますが、愛着を持って楽しく施設を利用して頂けるのではないかと期待に胸ふくらませています。

ブロックだより

癒されて… 心も体も リフレッシュ

泉州ブロック
保育士研修会

ね4 快晴に恵まれた11月15日(火)、泉州保育士会主催の神戸一日研修会が開

催されました。場所は、ホールオブホールズ六甲(オルゴール館)および、布引ハーブ園で、しばし日常のあわただしさから離れ、心身ともにリフレッシュできた一日でした。

車窓からの六甲山の紅葉は、本当に美しく、秋を感じながらの研修となりました。バスの中では自己紹介があり、他の保育園の先生方の日頃の話や、「子どもにパワーをもらいながら頑



張っています」など、元気の出る話を聞きました。はじめに、六甲山の展望台からの景色で心を癒されたあと、ホールオブホールズ六甲でのいろいろなオルゴールの音色、種類に驚き、

やさしい音色が響き渡る中、思わず眠ってしまいそうなほどうつとりしてしまいました。

布引ハーブ園では、のんびりした空気が流れており、雄大な景色を眺めながら散策し、ゆっくりした時間を過ごせました。

帰りの車中、園で保育してくれている先生方や園児を思い、一日楽しく過ごしてリフレッシュできた分、明日からしつかり頑張らなければという思いで一杯になりました。

(すいせん保育園 K・M/R・S)

保育園をたずねて

334

摂津市

一津屋愛育園

摂津市南部の淀川沿いに位置する一津屋愛育園は、平成3年に開園した定員90名の保育園です。

この地域は、古くから水路が整備され、今では存在しません、舟で農作物を運搬する、のどかな光景が見られました。

園長の前田文子先生は、「子どもたちに四季折々の体験やその時の喜びを分かち合えるように」と今年は年長児クラスと、園庭にバ



カマを使つての稲刈り

ケツを並べて稲の栽培をされたそうです。

秋の収穫時には、稲は立派に育ち、鎌を使って稲刈りをし、子どもたちが作った新米の餅米を年末のお餅つき会で食べるそうです。「この体験が、子どもたちが大人になって、人や物に感謝したりおもしろいやりの心を改めて思い起こすきっかけにつながるように」と願いをこめて…

昭和22年からの第1次ベビーブーム、昭和46年からの第2次ベビーブームの後、

駅局に ベストをつくせ

堺ブロック・研修会

出生率が低下。少子化の一途をたどり、定員割れを起す保育所も出てきている。子どもが少なくなったのに、保育所が多いという現実に対して、自分の保育所では地域、子どもたちのために何が求められているのか、しっかりと把握していかなくてはいいけない。

また、幼保一元化改革を柱に、制度・省庁・年齢区分・財源など、運営を保育所と幼稚園の共通制度の下で考えなくてはならない。

当然、間接契約から直接契約へ変わると考えられる。今年度から総合施設がモデル運営されているが、こ

大阪府社会福祉協議会、福祉人材研修センター部長の山崎明彦さんがこの11月7日に逝去された。山崎さんは昭和43年、府社協に入られ、ご活躍だったが、昨年体調を崩し、その後、治療に専念されたが効無く帰らぬ人となった。山崎さんが施設課長(現施設福祉部)であったころ、テレビ、漫画で「課長山崎」というドラマが流行してい



て、人気者の山崎さんをそのドラマのヒーロー(?)と重ね合せ、ドラマの Postar に手を加えて、山崎さんのオリジナルポスターと見えるほどの出来ばえだったことを思い出す。山崎さんが課長時代とその前後は、調査研究委員メンバーと福祉社について議論をし、時間が足りない、居酒屋で続きを熱く議論したことなど思い出される。心からご冥福をお祈りするばかりだ。

の先、国としても費用を掛けず、今ある施設を使って総合施設へ移行する可能性が高い。そのため、今後はますます幼稚園との園児確保競争に苦勞するだろう。「自分の保育所は自分で守る。その為には、何をしなければならぬのか、ベストを尽くすことが大切」と力強く講演を締められた。(八田莊第二保育園 M・A)

発行所
大阪府社会福祉協議会
保育部
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 勝
編集 永 水